

学校教育目標 「ともに成長し、未来を切り拓く児童の育成」
めざす学校像 『誰もが行きたい 行かせたい 来させたい学校』
めざす児童像 まなぶ子 はげむ子 あたたかい子
Let's challenge Keep trying Keep shining



神郷北小だより



令和6年2月吉日号②
新見市立神郷北小学校

読書感想文コンクール（課題図書） 食べ物を大切に

～「秘密の大作戦！フードバンクどろぼうをつかまえろ！」を読んで～

金賞 中学年部4年 池田 陽飛さん

岡山県学校図書館協議会主催の読書感想文コンクールに応募し、新見支部審査会で金賞、岡山県審査会で入選を受賞した感想文です。本の内容を端的にまとめ、疑問に思った事を追求し、自分の考えを率直に表現した作品です。



夏休みになる前、先生が読み聞かせて、オンジヤリQ、ラウフさんが書いた『秘密の大作戦！フードバンクどろぼうをつかまえろ！』という本を紹介してくれた。この時頃は、フードバンクという言葉を知らなかった。だから、もっとくわしく知りたいと思った。

この本の内容は、おなかをすかせた人たちを救ってきたフードバンクに、ある日どろぼうが入った。たくさん食品がぬすまれたせいで、フードバンクを利用していたネルソンとアシュリー兄妹の家庭にも、もらえる食品が少なくなってしまう。いつも食べ物をもっともらえなくなり、もう想ゲームで空腹をごまかしていた。だから、ネルソン達は、どろぼうをつかまえようと、友達と協力して、作戦を練って実行にうつした。張りこみをしていると、どろぼうがやって来た。勇気を出してどろぼうをつかまえることができた。そして最後には、どろぼうをつかまえて、フードバンクを守ろうとしたネルソンの行動が注目され、国内の貧しい家庭や子ども達を守る取組が活発になったという話だった。

読み進めていくにつれて、やはりフードバンクのことがますます気になった。フードバンクというのは、貧しくて困っている人達に、食品をきふしてあげることだということが分かった。貧しい人たちが、ご飯を食べさせてもらったり、食品をもらったりするというシステムが、世界にあるということだ。しかも、そのシステムが日本にもあるということを知ってびっくりした。貧しくてご

飯を食べられない人がいることは知っていた。うえて死んでいく人もいて、かわいそうだし、悲しいと思っていた。ぼくは、できることなら、貧しい人たちに、ご飯を食べさせてあげたいと思っていた。だから、すでにフードバンクがあつてよかったと思った。しかし、ぼくが調べたら、日本では、フードバンクについてあまり知られていないで、数が少ないことも分かった。また、世界では、九人に一人は、貧しいくらいでご飯が食べられないそうだ。

そこで、ぼくにできることはないか調べてみた。フードバンクは、大きな会社でも個人でも、食品をきふすることができる。岡山県にも、フードバンクがあり、なんと祖母の知り合いがやっていることが分かった。早速、ぼくもきふができるのか聞いてもらおうと、野菜や米など、作りすぎた食材をわたすことができると聞いた。新見市でも、大学生に食材をきふする活動をしているらしい。

でも、残念なことに、フードバンクの取組は、まだあまり知られていない。その背景に、食品ロス問題が広まっていることがあるらしい。たしかに、ぼくもきらいな物を残すことがある。買ったものでも、食べずに捨てることもある。ぼくは、そこから改めないといけないと思った。ぼくは、好ききらいをしない。本当に必要な物しか買わない。そして、いつかフードバンクにきふできる大人になりたいと思った。

読書感想文コンクール(自由図書)

見方が変わるとおもしろい本

～「空想科学読本」を読んで

銀賞 高学年部6年 島上 零さん



岡山県学校図書館協議会主催の読書感想文コンクールに応募し、新見支部審査会で銀賞、岡山県審査会で佳作を受賞した感想文です。アニメの世界で起こる超常現象を科学の力で、現実的に可能かどうかを証明していくような本ですが、本との出会いから視点が変わったことが素直に書いています。

『空想科学読本』この本のタイトルを見たときは、あまり面白そうには思わなかった。科学と書いてあるから、計算とかがたくさんあるんだろうなと思った。でも、目次を開いてみたら、『ポケモン』や『進撃の巨人』、『ラピュタ』など、ぼくの好きなアニメの文字が目に入った。科学とアニメの関係が気になって読んでみた。

この本には、アニメの中で実際にはありえないようなことを科学の力で説明している。

例えば、『進撃の巨人』で、頭が吹き飛んでもすぐに再生するという事を、科学で証明している。もともと生き物は、再生能力をもっているらしい。確かに、ぼくもけがをしても一週間もしたら、かさぶたができて、治っていく。生き物にとって、この再生能力の速度はちがうらしい。

クラゲやイソギンチャクの仲間であるヒドらは、原始的な動物で、肛門がない。排泄物は、全身の細胞からにじみ出るらしい。また、サナダムシの仲間であるプラナリアは、体のどこをどう切断されても再生する。こうした原始的な生物は、切られた破片がすべて、一匹一匹のヒドらやプラナリアになるらしい。恐ろしいほどの再生能力である。高等な生き物ほど再生に時間がかかることが分かる。



ぼくには、免疫力というものがあり、熱が出たり、病気になったりしたら、自分の力で戦う力を持っている。この免疫力は、食事や睡眠、運動によって作られているらしい。巨人は、何も食べなくても生きていられるらしい。この世に存在している生き物としてあるが、正直分らないし、存在してほしくない。

もう一つ気になった証明が、巨神兵とラピュタの破壊力の強さの証明である。巨神兵とラピュタが戦ったら、どっちが勝つか。破壊兵器としての威力は、ラピュタの雷は、巨神兵のビームの二倍近いらしい。巨神兵の身長は百メートルで時速三十キロ。一体の巨神兵は七日間で、二十六万平方キロメートルを火の海にできる。これは、世界の面積の五百九十分の一にあたる。と言うことは、五百九十体の巨神兵がいれば、世界は一週間で滅びることとなる。ラピュタが、この巨神兵と戦うとうなるか。ラピュタは、上空七キロにいる。ラピュタの雷は、一発で半径四十一キロを焼き払うことができる。多少狙いがぶれても、巨神兵を倒すことは可能となる。攻撃されている巨神兵が、助けを求めても、時速三十三キロでは、間に合わない。よって、ラピュタは、上空から一体ずつ巨神兵を攻撃していけば、全部を倒せることになるらしい。

アニメを見ているときには、ただ破壊力のすごさに驚きながら見ているだけだったけど、この本を読んで、科学的にいろいろな事が証明されると、見方が変わって面白いなと思った。ぼくも、もう少し科学にきょうみをもって見ようと思った。

